

特別支援教育講座 受講生募集要項

1. プログラムの趣旨

「特別支援教育」は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものとされています。

大妻女子大学児童臨床研究センターでは、今年度も専門性の向上のため、「特別支援教育に対して自らの考えを深める・広げる」をテーマに、さまざまな観点から講義・演習を行います。特別支援教育に携わる、また携わりたいと考えている方々にとっては、ご自身の興味に向き合い、かつ自らの実践を省みる機会となると思われます。

つきましては、以下の通り、受講生の募集を行いますので、ご関心がおありの方は、ぜひご応募ください。

2. 日程と会場

令和8年 8月 29日（土）、令和8年 9月 5日（土）、令和8年 9月 12日（土）

令和8年 11月 7日（土）、令和8年 12月 5日（土）、 5日間 10講座

大妻女子大学（千代田キャンパス）

3. プログラムの内容 別紙参照

4. 受講料（資料代込）

5,000円（本学3、4年生は3,000円）

5. 受講対象

- ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の先生
- ・特別支援教育に参加している支援員や補助員の方
- ・特別支援教育に関心があり、基本的な知識及び支援方法を学びたい方
- ・実習を経験した本学3、4年生

6. 募集人数

計30名（定員になり次第、ホームページでお知らせします）

7. 募集期間

令和8年 8月 7日（金）締め切り

8. 申込方法

以下の手順でご応募ください。

- （1） 「特別支援教育講座 申込みフォーム」に必要事項を入力の上、お申込みください。
- （2） 外部の方は、申し込みが確認された後に「受講料振込先メール」をお送りいたします。「受講料振込先メール」に記載された振込先に、指定期日までに受講料をお振込み下さい。
- （3） 在学生は、7月13日（月）までに申込み登録を完了し、7月15日（火）～17日（金）の期間にパピルスメイトにて受講料をお振込みください。

注) 応募いただいた際のメールアドレスに“返信”をします。下記メールアドレスからの受信ができるよう、メールの受信設定を必ずご確認ください。よろしくお願いいたします。

- (4) 指定期間内に振込が完了された方に「受講決定通知」をメールにてお送りし、受講生として登録いたします。
- (5) 受講料ご入金後のキャンセルはいたしかねます。

9. 申込先

URL

<https://forms.gle/wB8V57w6Bi76V2ks9>

QRコードはこちらから



10. 応募先・問い合わせ

大妻女子大学家政学部 児童臨床研究センター

〒102-8357 東京都千代田区三番町 12

TEL : 03-5275-6129 FAX : 03-5275-5252 / E-Mail : jirinken@ml.otsuma.ac.jp

月～金 : 10 : 00～16 : 30

テーマと概要

実施日：8月29日（高橋ゆう子）

テーマ：障害のある子どもの支援における意思の尊重とこどもの居場所について考える

概要：こども家庭庁から令和7年度 相談支援従事者指導者養成研修の資料として出された「障害児支援施策、こども・子育て支援施策の最近の動向」をもとに、子どもの意思の尊重やこどもの居場所について話題提供します。そして、多様性やインクルーシブの視点が求められているからこそ、子ども（相手）ではなく、自身の思いや考え方（大事にしたいこと）も見直してみる、そのような機会にしたいと考えています。

実施日：8月29日（綿貫愛子）

テーマ：当事者と考える！神経発達症の理解と支援

概要：本講座は、自閉スペクトラム症など神経発達症のある成人であり、心理職として巡回相談に従事する講師が、対話と協働を通じて、参加者と教育や支援のあり方をともに考える場です。参加者が日々の実践や経験のなかで感じられていることを率直にうかがい、お答えし、一緒に考える時間を大切にします。

実施日：9月5日（加藤裕美子）

テーマ：寄り添う支援とは何か—子どもの声に耳を澄ます実践—

概要：特別支援における「寄り添う」とは単なる優しさではなく、子どもの内面や背景を理解しようとする姿勢です。本講座では、行動の背景にある子どもの思いや発達特性を理解し、子どもの「困り感」に気づく視点、安心できる関係づくりについて学びます。そして日常の関わりを振り返りながら支援者としての在り方を一緒に考えたいと思います。

実施日：9月5日（後藤智行）

テーマ：一人一人の声を大切にする対話

概要：ここでは、子どもだけでなく保護者、支援をしていく側の人の声を大切にするを一緒に考えていきます。フィンランドで行われている対話（ダイアログ）を元に、「傾聴」をするための重要な要素をお話しします。子どもの育ちを支えるためには、周囲の人々が子どもを含めた互いの声を大切にするのが重要であるという気づきを持つことが大切です。一人一人の声を大切にできる対話の場づくりもともに考えていければと思っています。

実施日：9月12日（長江清和）

テーマ：障害の特性を踏まえた指導・支援のあり方 ～知的障害と自閉スペクトラム症を中心に～

概要：特別な教育的ニーズのある子どもたちの指導・支援を行う際に、障害の特性を踏まえて行うことが必要不可欠です。特に知的障害と自閉スペクトラム症の子どもたち（傾向や疑いを含む）は、様々な状態像を示すためアセスメントの難しさがあります。知的障害と自閉スペクトラム症について学び、具体的な事例を基にして、指導・支援のあり方を共に考えていきましょう。

実施日：9月12日（鳥海順子）

テーマ： 医療的ケア児の保育・教育

概要： 医療的ケア児は日常生活を営む上で、医療的ケア、具体的には人工呼吸器による呼吸管理などの医療行為を必要とする児童のことを指します。病院での入院生活を余儀なくされていた医療的ケア児でしたが、最近では地域での生活が可能になってきました。令和3年には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されています。このような医療的ケア児に関する動向を踏まえながら、保育や教育における支援について考えます。

実施日：11月7日（久富陽子）

テーマ： 保育者の臨床性ー巡回保育相談を通してー

概要： 臨床というと心理や医療の場面を考える人も多いと思いますが、保育の現場も極めて臨床的な場です。そして、保育者はその専門性の中に臨床性があります。2つの自治体で巡回保育相談員として過ごす中で多くの子どもたちや保育者に出会う機会をいただきました。そうした出会い等から考えてきたことをお話し、保育者の臨床性を考えたいと思います。

実施日：11月7日（石川昌紀）

テーマ： 対話と内省による言語化ー巡回保育相談を通してー

概要： 事例検討を通じた対話と内省から、保育の実践知を言語化します。ワークショップでは多角的な視点でアイディアーションを行い、インクルーシブな観点から環境や子どもの捉え直しを試みます。個に帰属しがちな見方を相対化し、多様な価値観に触れることは、保育をアップデートする好機です。巡回保育相談を語り合いによる探究と位置づけ、世代や経験を問わず学びを共有しながら、一歩先の保育を見つけてみませんか。

実施日：12月5日（吉田明子）

テーマ： 10年後の彼らを救う、今の視点

～学童期の『困りごと』が思春期にどう変化し、何を残すのか～

概要： 小学校で目にする「困りごと」は、成長と共に姿を変え、中学・高校では不登校や二次障害として深刻化することがあります。本講座では、20年以上にわたり CASE Japan の支援現場から見えた、成長過程で変化する特性のリアルを紐解きます。「今」の適切な環境調整が、10年後の彼らにどんな力を残すのか。思春期・青年期の課題を予見し、自立へと繋ぐために、今私たちが大切にすべき支援の視点を共に考えます。

実施日：12月5日（高橋ゆう子）

テーマ： 特別支援教育における対話の活用

概要： ここでは、フィンランドで開発された早期対話について紹介し、その活用について提案します。まず、子どもの声に耳を傾けることについて、「お友だちスキル」を使って子どもたちとワークをした事例、また、子どもの育ちを支えるために大人同士がつながることについて、個別指導計画作成の事例を踏まえてお話しします。そして、ワークの体験を通して、対話において重要なポイントとなる他者性の尊重について、受講者のみなさんと考えたいと思います。

令和 8 年度 特別支援教育講座プログラム

回	講義日	時間	テーマ	講師	場所
1	8月29日 (土)	13:00~14:30	障害のある子どもの支援における意思の尊重とこどもの居場所について考える	大妻女子大学 高橋 ゆう子	千代田 キャンパス 本館F棟744
2		14:40~16:10	当事者と考える！神経発達症の理解と支援	NPO 法人 東京都自閉症協会 役員 綿貫 愛子	
3	9月5日 (土)	13:00~14:30	寄り添う支援とは何か —子どもの声に耳を澄ます実践—	大妻女子大学 児童臨床研究センター 加藤 裕美子	千代田 キャンパス 本館F棟437
4		14:40~16:10	一人一人の声を大切にする対話	(株) Tsumygoe 代表 後藤 智行	
5	9月12日 (土)	13:00~14:30	障害の特性を踏まえた指導・支援のあり —知的障害と 自閉スペクトラム症を中心に—	国立特別支援教育総合研究所 センター長 長江 清和	千代田 キャンパス 本館F棟744
6		14:40~16:10	医療的ケア児の保育・教育	大妻女子大学人間生活文化研究所 特別研究員 鳥海 順子	
7	11月7日 (土)	13:00~14:30	保育者の臨床性 —巡回保育相談を通して—	大妻女子大学 久富 陽子	千代田 キャンパス 本館F棟437
8		14:40~16:10	対話と内省による言語化 —巡回保育相談を通して—	東京家政大学 准教授 石川 昌紀	
9	12月5日 (土)	13:00~14:30	10年後の彼らを救う、今の視点 ～学童期の『困りごと』が思春期に どう変化し、何を残すのか～	NPO 法人 CASE JAPAN 代表 吉田 明子	千代田 キャンパス 本館F棟744
10		14:40~16:10	特別支援教育における対話の活用	大妻女子大学 高橋 ゆう子	